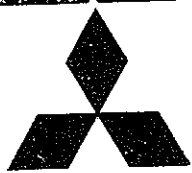


全日本カッター競技大会

6

昭和27年5月2日（日）
東京水産大学館山実習場沖
主催 日本カッター連盟
後援 毎日新聞社
館山スポーツニッポン社



陸・海・空に
安定成長を続ける……

新三菱重工業株式会社

本社
東京都千代田区丸の内2の10電話東京 (211) 3411(大代表)

主要製品目

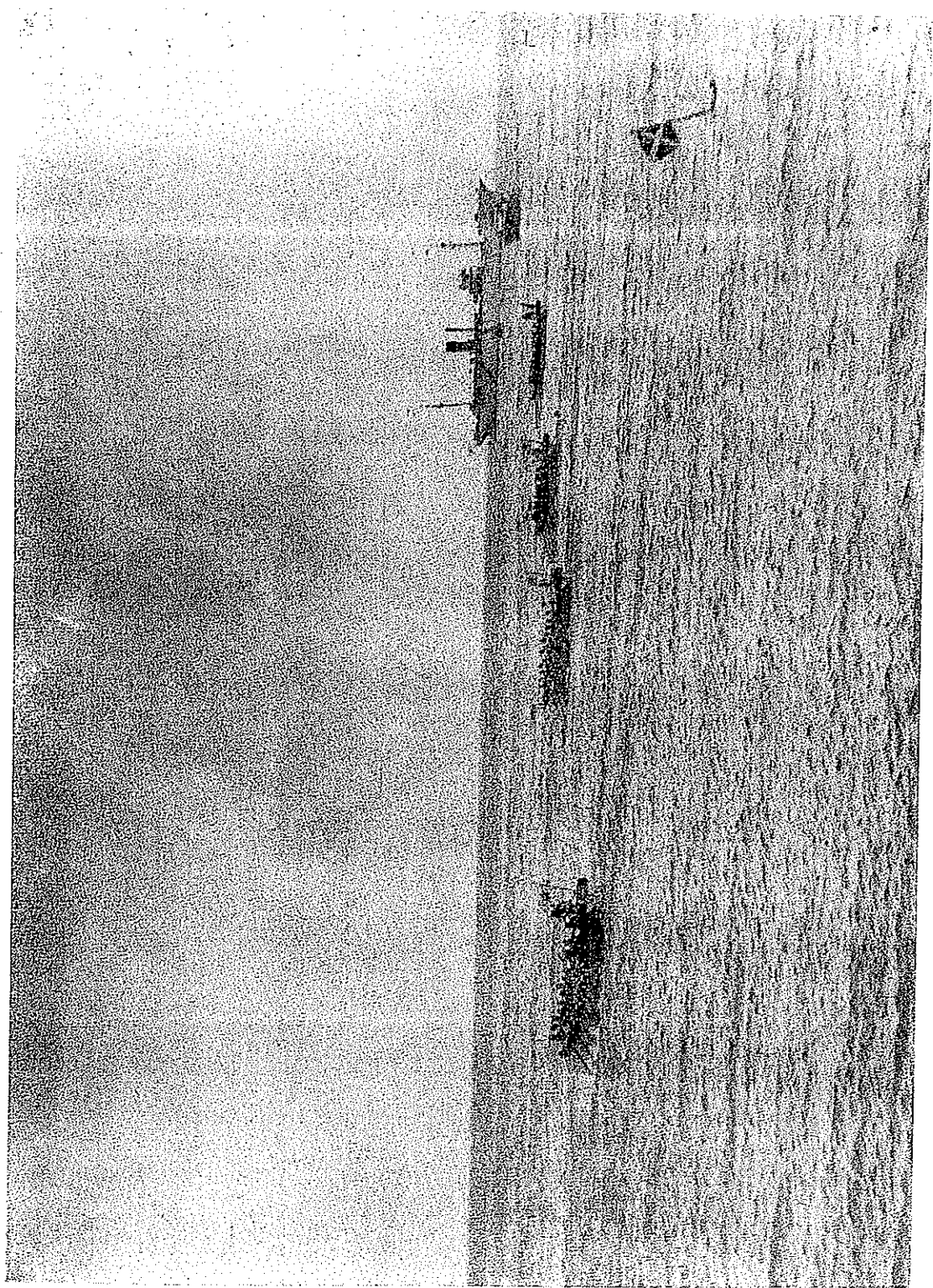
船舶・原動機・鉄構・原子力工業・
鉄道車両・航空機・産業機械・化学
機械・自動車・工作機械・農業機械
・その他



船舶、艦艇の造修
化学工業プラント設計、製作



本社工場 大阪市住吉区柴谷町二丁目九番地
電話 住吉 (671) 2-6931~8番
東京事務所 東京都中央区日本橋本町二丁目三番地
三井別館 60-2号室
直通電話 日本橋 (241) 0777・3081番



第6回全日本カッター競技大会を迎えて

東京水産大学学長 関 根 隆

水ぬるむ初夏を思はせる今日五月二十七日、全国の海に関係を待つ大学の参加を得て、第六回全日本カッター競技大会を、風光明眉な房州の鏡浦に於て開催されるに至つた事は詢に慶びに堪えない所であります。

戦後スポーツが盛になり、いよいよ明後年には国際オリンピックも日本で開催されようとしているとき、各種競技は何れも相当の位置にまで向上し、体質と共に戦前を遙に凌駕する成績を示している事は、これ亦喜ばしい限りであります。然るに一方陸上に対し、水上就中海上の競技として、一般に顧みられないカッター競技は、戦前は海軍に於て行われたのみでありまして、カッターの漕技は、実際に大海を相手とする我々にとつては、他の競技のようなスポーツ的練習ではなく、常に真剣に訓練されて来たのであります。

この鍛えられた訓練を海の若人が晴の鏡浦で日頃の腕を十二分に発揮し、堂々と戦はんとするのであり、その旺盛な意気は期して待つべきものがあると確信しておるのであります。柳々我国は四面環海の海の國であり、海に生きる我々は海との連りなしには生活の維持向上も亦文化を高め國の発展も困難な環境に置かれておるのであります。稀には海の被害を蒙る事もありますが、海から受ける恩恵は非常に大きいのであります。地球の約七割を占める広大無辺な海洋は、交通路として陸地より遙に重要であり、船は他の輸送機関に比して遙に能率的であり、海運の重要性は航空機の発達した現在でさえ尚減少せず、又貿易の自由化と共に、出入船舶の監視、海上の安全を護り、遭難船の救助に又戦後の複雑な世界の状況下にあつて海の護りを荷負う國防と、又陸上資源に乏しい上に一億の人口を抱えている現在、國民の保健栄養上水産業は我國にとつて遙に切実な問題であつて、南、北極洋を初め七つの海を舞台として日夜苦斗を続け乍ら海の開拓に努力している皆夫々の使命を果すべく、陸上では想像し得ない重大な任務が果されているのであります。

やがては大海に乗り出しこの大自然を相手として海に活躍する若人達である。夫々の任務は違うけれど、海に志す是等の若人が一堂に会してカッター競技を通じて互に理解と親善を深め、この恵まれた好機をより一層有意義に一層親密ならん事を希願すると共に、本大会をより堅實なものとして、此後一段の発展を祈念して止まないののであります。

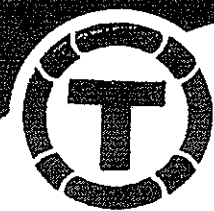
終りに臨み、本大会を開催するに当り、種々御援助御配慮賜つた各位に対し、深甚なる謝意を表する次第であります。

大 会 役 員

会 長	東京水産大学 学 長	関	根		隆
副 会 長	東京水産大学 漁業学科長	熊	凝	武	晴
審 判 長	東京水産大学 学 生 部 長	在	原	千	秋
	東京水産大学 教 授	依	田	啓	二

役 員	慶 児 島	皆	元	国	東 水 大	久	保	田	穰
	長 崎	麻	生 幸	則	〃	山	口	芳	男
	下関水講	泉		徹	〃	佐	々 木	幸	康
	海上保安	八 重 樫		勉	〃	神	田	猷	二
	神 船 大	高	原	誠	〃	小	倉	通	男
	三 重	細	川	雄	〃	鈴	木		誠
	防 大	田	中	一	〃	石	川	好	郎
	日 大	添	田	男	〃	千	葉	喜 馬	太
	東 船 大	大	塚	久	〃	長	谷 川	常	喜

Oil Tanker



日本油槽船

取締役社長 荒 木 茂 久 二

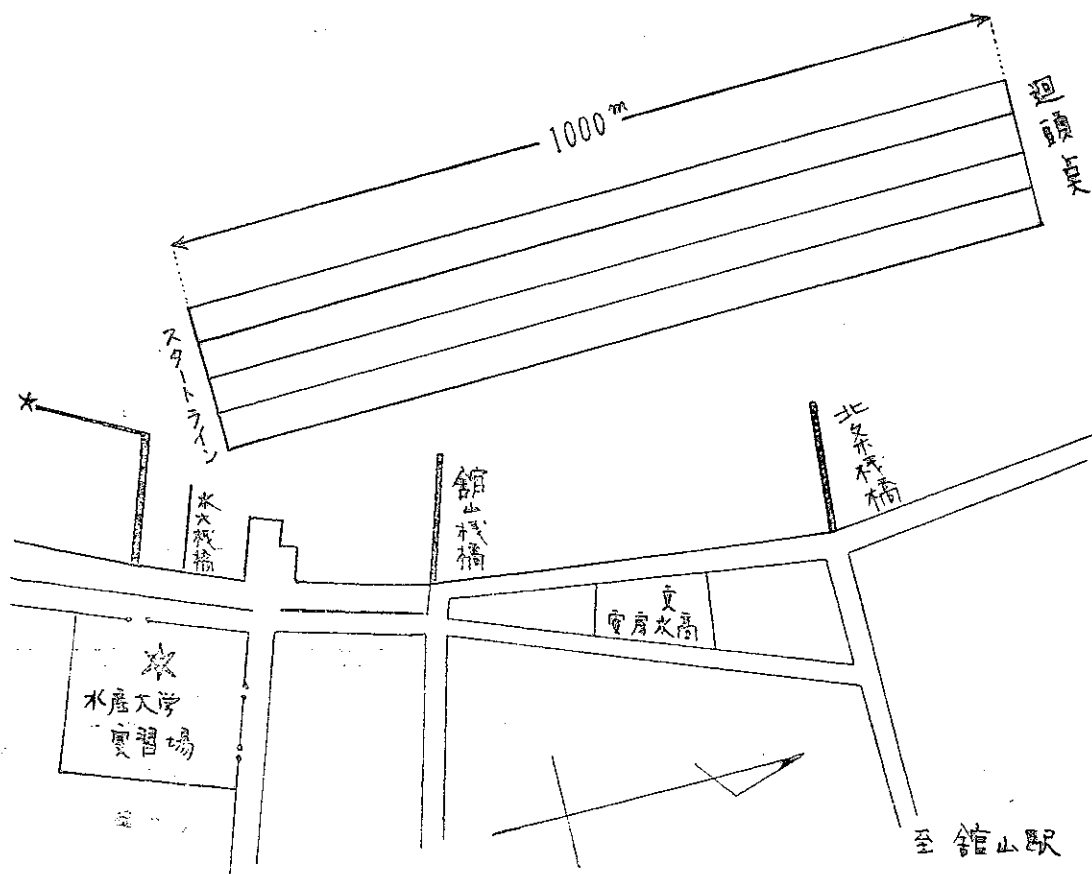
東京都千代田区丸ノ内1の1

顧問	千葉県知事	柴田 等
	館山市市長	田村 利男
参与	千葉県教育委員長	和泉 久男
	館山市体育協会顧問	川名 正義

大会委員

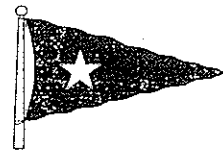
委員長	前田 洋介	渉外広報 {	荻板新	野谷美原	光繁佑修	宏幸二二
総務	守田 野厚		務 {	織岡	田戸	章朗志隆三
運営	只上杉増専	庶務 {	牧	藤田 部	仁正	
管理	田進伸	通信	岡			
審判	本田 崎	会場	待			
配給	田 一	接待	行			
出發決勝	田 合	進行	池			
宿泊		警察保安	渡			
給養		記録	佐			
医務						

コース見取図



キユーピーマヨネーズ

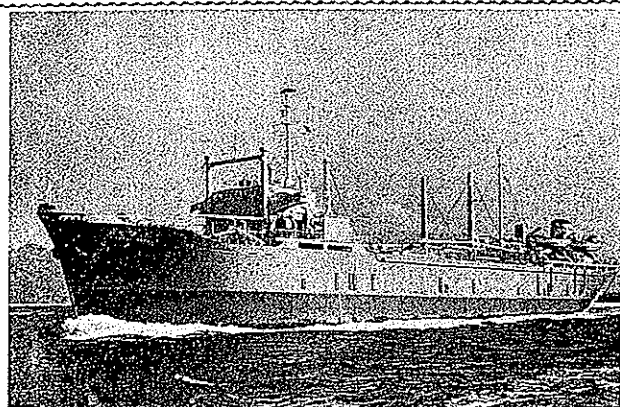
アヲハタの缶詰



出 漕 ク ル

鹿 児 島 大 学

	氏 名	身長	体重	科・学年	出身校(県)
顧問	國博至	163	55	増 2	田 川
指揮	元平雄	160	50	漁 2	々 築
艇長	森橋島	164	64	製 3	樵 椎
1	高塚平	168	58	増 3	府 台
2	野田隆	168	60	漁 2	宮 山
3	神谷桂	173	65	漁 2	津 東
4	狩谷藤	170	63	漁 3	宮 名
主将	進藤井	172	68	漁 2	宿 東
5	浅坂梨	178	65	漁 2	子 雨
6	坂和田	170	70	漁 3	鶴 代
7	松本藤	163	57	製 2	之 館
8	加藤波	170	63	漁 2	学 院
9	並村中	168	65	漁 2	田 南
10	池田紘	162	62	漁 2	北
11	島藤飯	161	61	経 2	
12		161	60	漁 2	
補		170	63	漁 3	
補		170	58	増 3	
補		168	58	経 4	
マネージャー					
短艇委員長					



宝 幸 水 産 株 式 会 社

取締役社長 深 尾 清 吉

本 社

東京都中央区築地一丁目二十四番地

電話東銀座 (541) 三二九一(代表) 一八

(541) 四七四六(代表) 一九

事 業 内 容

母船式北洋さけ・ます漁業

遠洋かつお・まぐろ漁業

母船式北洋かれい漁業

南水洋鯨肉運搬事業

以西底曳網漁業

大型旋網漁業

缶詰その他加工業

出 漕 ク ル

長 崎 大 学

	氏 名	身 長	体 重	出身校(県)
願 間	麻 生 幸 則			
艇 長	川 原 征 一 郎	163	53	猶 興 館 高 (長 崎)
艇 指 揮	村 上 弘 晃	160	55	興 関 西 高 (山 口)
1	山 根 通 弘	164	60	田 益 高 (島 根)
2	花 田 八 紘	173	68	益 嘉 高 (福 岡)
3	塚 田	165	65	岸 和 田 高 (大 阪)
4	陶 山 至	175	63	鳥 樫 高 (佐 賀)
5	小 田 英 勝	165	61	御 船 高 (熊 本)
6	小 山 弘	173	67	御 影 高 (兵 庫)
7	久 保 田 勝 彦	165	60	大 嶺 高 (山 口)
8	園 田 成 三 郎	172	65	森 高 (大 分)
9	津 田	175	70	小 野 田 高 (山 口)
10	川 田 昇	164	60	八 尾 高 (大 阪)
11	○ 守 口 健 次 郎	163	60	津 部 北 高 (大 分)
12	秋 重 裕 章	171	67	宇 部 高 (山 口)
補 捕	岩 佐	166	64	市 丘 高 (大 阪)
補 捕	平 田 渥	169	63	玉 名 高 (熊 本)
マネージャー○	渡 部 葵	163	53	東 筑 高 (福 岡)

北 洋 母 船 式 鮭 鱒 漁 業

函 館 公 海 漁 業 株 式 会 社

取 締 役 社 長 家 坂 孝 平

本 社 函 館 市 仲 浜 町 46

電 話 (代 表) (3) 2 1 3 1 番

支 社 東 京 都 港 区 芝 新 橋 4 丁 目 1 番 地

新 橋 ビ ル 4 階

電 話 銀 座 (571) 9201 ~ 10・9221 ~ 30

(直 通) 8001 ~ 8003

出 漕 ク ル

農 林 省 水 産 講 習 所

	氏 名	身長	体重	科・学年	出身校(県)
願 願	橋 本 雄	165	62	漁 3	泉 丘 高 (石 川)
艇 艇	泉 崎 徹	167	52	漁 3	戸 煙 中 央 (福 岡)
1	金 田 信	168	61	漁 3	福 東 岡 筑 陽 (福 岡)
2	牟 原 一	163	56	漁 2	東 葦 小 舞 東 菊 桜 朝 (福 島)
3	木 雅 忠	170	70	漁 2	葦 小 舞 東 菊 桜 朝 (福 島)
4	縄 本 忠	167	60	製 3	小 舞 東 菊 桜 朝 (福 島)
5	松 本 英	165	70	製 3	穴 本 英 一 春 昂 生 健 民 二 郎 靖 一 司
6	穴 本 公	169	68	機 3	本 公 濟 紀 恒 謙 信 絃 敏
7	塚 本 井	174	70	漁 3	本 井 満 川 山 崎 見 倉
8	藤 吉 紀	157	72	漁 2	藤 吉 紀 恒 謙 信 絃 敏
9	瀬 川 恒	173	71	機 3	瀬 川 山 崎 見 倉
10	吉 田 謙	169	69	漁 2	吉 田 謙 信 絃 敏
11	円 山 恒	165	58	漁 2	円 山 恒 謙 信 絃 敏
12	関 謙	166	59	漁 2	関 謙 信 絃 敏
補 補	浜 崎 信	163	60	増 2	浜 崎 信 絃 敏
マ ー	林 見	163	55	増 2	林 見 倉
ネ ー	穴 小			製 3	穴 小
シ ャ ー				増 3	
ハ					

株式会社

北海道漁業公社

事 業 目 的

漁 業
食品加工製造販売業
農畜産物の生産加工販売業
海上運送業
前各号に附帯する事業

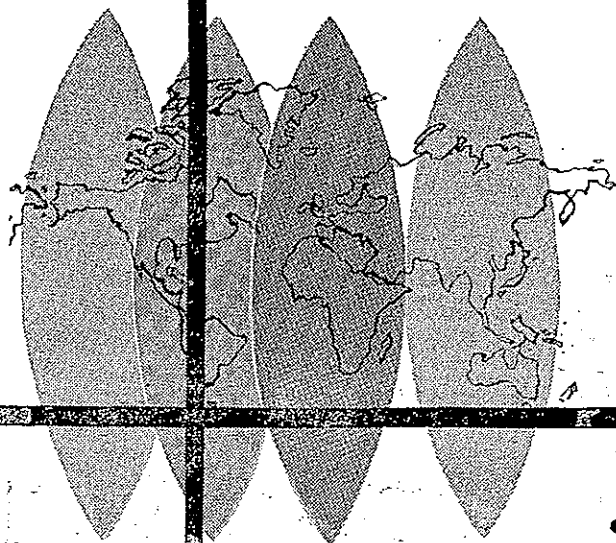
本 社 札幌市大通西四の六
東京支社 東京都港区芝新橋四の一
函館支社 函館市鶴岡町三六
事業所 釧路・紋別・稚内・江差

出 漕 ク ル ー

海 上 保 安 大 学

願 望 艇 指 揮 艇 長 マネージャー	氏 名	身長	体重	科・学年	出身校(県)		
					出身校	出身校	出身校
1	八重山 勉	176	73	航海3	日高	杵津	高 (大 分)
2	陶野 高	164	58	航海3	高桃	山南	高 (大 阪)
3	徳井 孝	173	65	通信3	城	丸	高 (京 都)
4	今山 至	167	56	通 2	鷗	九	高 (徳 島)
5	青山 彦	162	57	通 2	浅	野	高 (鹿 児 島)
6	日坂 良	163	62	航 3	朱	雀	高 (東 京)
7	田星 一	173	65	航 2	德	山	高 (京 都)
8	赤谷 幸	165	56	航 1	山	田	高 (山 口)
9	熊下 輝	164	56	通 3	藤	島	高 (福 岡)
10	毛利 俊	167	67	通 2	海	城	高 (福 井)
11	伊藤 普	170	63	通 2	西	京	高 (東 京)
12	則包 男	168	76	通 3	糸	川	高 (新 潟)
補	石立 治	171	60	通 2	大	魚	高 (京 都)
補	足田 功	173	67	機 3	日	泉	高 (東 京)
補	山野 雄	171	66	機 3	天	南	高 (宮 崎)
補	牧野 豊	163	62	機 2	東	王	高 (大 阪)
補	菅野 夫	165	70	機 1	北	寺	高 (富 城)
補	小林 昭	172	61	機 1	墨	学	高 (干 葉)
補	藤原 英	170	65	機 1	北	院	高 (北 海 道)

MITSUI LINE

迅速、確実な
サービス

三井船舶

本店 東京・日本橋室町(三井ビル)

出 漕 ク ル ー

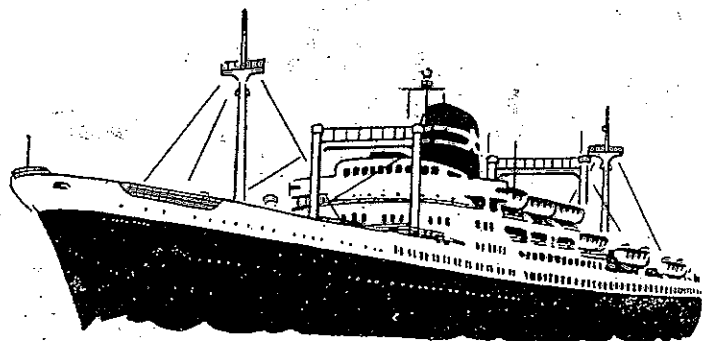
神 戸 商 船 大 学

	氏 名	身長	体重	科 学 年	出身校(県)
顧問	西 原 義 久	163	60	E 3	若 松 高 (福 岡)
艇長	高 原 田 壽 雄	169	63	N 4	小 倉 高 (福 岡)
艇指揮	◎ 石 佐 藤 和 典	161	63	E 2	田 林 高 (大 阪)
1	美 鈴 小 串 南	164	60	E 2	森 所 高 (東 京)
2	鈴 小 串 南	167	65	E 2	森 所 高 (滋 賀)
3	矢 野 壘 紀	166	64	E 3	星 陵 高 (兵 庫)
4	須 賀 井 健	172	67	E 2	旭 中 高 (大 阪)
5	鈴 木 三 郎	171	60	N 2	天 王 寺 高 (大 阪)
6	堀 田 時 彦	172	68	N 3	天 王 寺 高 (大 阪)
7	大 崎 修 治	165	67	N 2	港 半 田 高 (大 阪)
8	大 菊 地 駿 一	170	70	E 2	天 王 寺 高 (愛 知)
9	奥 村 宗 博	162	60	N 3	天 王 寺 高 (大 阪)
10	谷 口 博 胤	165	65	N 3	篠 山 鳳 鳴 高 (兵 庫)
11	飯 田 恒 雄	174	66	E 3	豊 中 高 (大 阪)
12	安 藤 雅 正	171	66	N 2	豊 中 高 (大 阪)
補	中 津 藤 永	174	66	N 2	夕 陽 丘 高 (大 阪)
補	福 永 陽 司	169	61	E 2	岸 和 田 高 (大 阪)
補	根 来 孝 行	174	60	E 2	
マネージャー	○ 根 来 孝 行	165	62	N 3	



O.S.K. Line

貨物と船客輸送は伝統を誇るO. S. K. で!



大阪：大阪市北区宗是町1 TEL(441) 1731
 東京：東京都中代田区内幸町2の1 TEL(591) 9111
 支店：東京・横浜・名古屋・大阪・神戸・門司・小樽・経営

大阪商船

出 漕 ク ル ー

三 重 県 立 大 学

氏 名	身長	体重	科・学年	出身校(県)
雄 郎	162	55	増 3	明 和 高 (愛 知)
鉄 和	165	56	増 3	明 和 高 (愛 知)
人 明	165	65	漁 3	小 倉 高 (山 口)
平 昭	161	50	漁 3	端 名 高 (愛 知)
洋 浩	178	70	2	古 屋 高 (愛 知)
之 尚	165	62	2	松 台 高 (愛 知)
穹 夫	167	60	漁 3	池 阪 高 (三 重)
藤 和	170	55	漁 3	神 戸 高 (大 阪)
征 介	177	72	2	刈 谷 高 (三 重)
誠 正	166	57	製 3	刈 谷 高 (愛 知)
陸 己	167	61	漁 3	敏 傍 高 (奈 良)
克 勝	172	65	2	高 津 星 高 (大 阪)
廉 義	169	60	2	海 南 星 高 (三 重)
喜 郎	163	58	2	南 松 勢 高 (三 重)
健 司	173	63	増 3	伊 勢 深 高 (長 野)
政 司	160	55	増 3	伊 勢 深 高 (三 重)
豊 司	176	66	2	伊 勢 深 高 (三 重)
田 政	165	55	2	伊 勢 深 高 (三 重)
田 豊	167	57	2	池 田 高 (大 阪)

事 業 内 容

北 洋 母 船 式 鮭 鱒 漁 業
 母 船 式 底 曳 延 縄 刺 網 漁 業
 塔 載 母 船 式 鮪 漁 業
 以 西 底 曳 網 漁 業
 南 水 洋 鯨 肉 買 付 加 工 事 業

積 取 式 中 型 機 船 底 曳 網 漁 業
 母 船 式 鮪 漁 業
 單 船 式 鮪 漁 業
 母 船 式 蟹 漁 業
 貸 船 事 業



報 国 水 産 株 式 会 社

取 締 役 社 長 江 島 静 男

本 社 東 京 都 中 央 区 小 田 原 町 1 丁 目 1 番 地

電 話 東 銀 座 (541) 1941~6 番

分 室 東 京 都 中 央 区 築 地 1 丁 目 7 番 地

日 刊 ス ポ ー ツ ビ ル 内

電 話 (542) 2546~9 1721・0091~2 (直 通)

支 社 戸 畑 ・ 函 館

出 漕 ク ル ー

防 衛 大 学

	氏 名	身長	体重	科・学年	出身校(県)
顧問	田 中 健 一				
艇指揮	向 井 正 興	169	72	海・機械 4	映 北 高 (山 梨)
艇長	平 田 清 勝	170	62	海・電気 3	北 見 櫛 陽 高 (北海道)
1	牧 山 元	160	62	海・応物 4	旭 川 西 高 (北海道)
2	千 々 木 雅 也	173	67	海・応化 4	井 原 高 (岡 山)
3	山 口 弘 治	172	69	海・航工 3	泰 野 高 (神奈川)
4	松 元 富 郎	176	70	陸・土木 4	ラ サ 一 ル 高 (鹿児島)
5	吉 田 時 信	171	67	陸・応物 2	鳥 原 高 (長 崎)
6	永 尾 泰 信	169	73	海・応物 3	久 留 米 大 附設高 (福 岡)
7	河 野 光 男	177	76	陸・応化 4	城 小 南 高 (徳 島)
8	細 川 宣 晃	176	76	海・電気 3	小 樽 千 秋 高 (北海道)
9	梶 浦 邦 夫	172	71	海・航工 3	大 手 前 高 (香 川)
10	未 票 廷 猛	172	66	空・応物 3	築 上 中 部 高 (福 岡)
11	宮 本 厚 端 武	168	69	陸・機械 3	平 塚 江 南 高 (神奈川)
12	補 多 官 本 久 昌	171	65	海・航工 2	石 神 井 高 (東 京)
補 多 官 本 久 昌	176	67	海・電気 3	下 関 西 高 (山 口)	
補 多 官 本 久 昌	164	65	空・航工 2	仙 台 二 高 (宮 城)	
主務	別 府 栄 二	166	58	海・電気 4	今 治 西 高 (愛 媛)

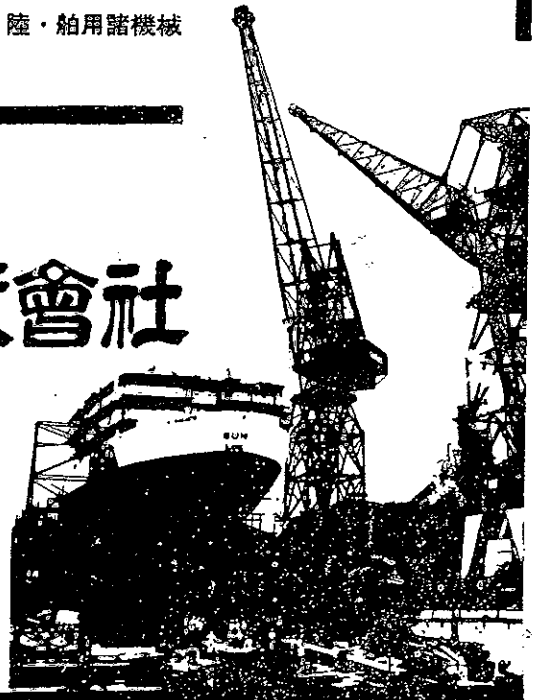


船舶・艦艇造修、浦賀スルザー・ディーゼル機関
浦賀ドラバル蒸気タービン、陸・船用諸機械
橋梁・鉄構工事

浦賀船渠株式会社

代表取締役社長 多 賀 寛

東京都千代田区大手町2の4 新大手町ビル
電話(大代表)東京(211)1361



出 漕 ク ル

日 本 大 学

氏 名	身長	体重	科 学 年	出身(県)
男二 秀賢	167	70	製 3	高 (新 瀧)
二 之 求	159	51	漁 2	高 (神 奈 川)
三 孝 一	175	73	製 2	高 (東 京)
前 田 一 多	174	60	製 3	高 (東 京)
岸 田 龍 男	170	60	製 2	高 (東 京)
加 藤 六 朗	170	65	製 2	高 (北 海 道)
槽 谷 井 光 俊	169	60	漁 3	高 (東 京)
瀬 長 岡 雄 彦	174	67	漁 3	高 (東 京)
吉 原 喜 好 治	178	71	製 3	高 (富 山)
西 征 太 郎	179	70	製 2	高 (東 京)
中 川 司 夫	169	65	増 2	高 (東 京)
長 西 征 太 郎	166	59	漁 3	高 (東 京)
丸 田 茂 司	172	60	漁 2	高 (千 葉)
会 田 晴 友	170	57	製 2	高 (愛 知)
高 守 友 之	162	56	製 3	高 (長 野)
	163	58	製 3	高 (東 京)
	165	60	製 3	高 (東 京)
	169	61	増 2	高 (東 京)

願 間
艇 指
艇 長
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
補
補
補
補



- ・焼肉 罐詰
- ・鯨大和煮
- ・ソーセージ
- ・ペビーハム

大 洋 の 缶 詰

ハム・ソーセージ

大 洋 漁 業

出 漕 ク ル

東 京 商 船 大 学

願 問 疑 指 縦 長	氏 名	身長	体重	科学・年	出身高(県)
◎	中大 島 保 司	168	60	N 4	修 鯨 館 高 (福 岡)
○	大東 塚 高 久 二	160	56	N 3	旭 川 西 高 (北 海 道)
1	島 崎 勝 之 雄	169	62	E 4	豊 多 摩 高 (長 崎)
2	佐 藤 勝 二 郎	158	59	N 2	大 泉 高 (東 京)
3	飯 野 賢 輔	170	60	E 2	広 尾 高 (東 京)
4	原 田 深 二 郎	168	60	E 2	小 倉 高 (福 岡)
5	淡 井 信 義 幸	165	65	N 2	川 島 高 (德 島)
6	大 飯 塚 義 朗 久	169	65	N 3	森 広 高 (北 海 道)
7	清 水 孝 裕	172	63	N 2	九 尾 高 (東 京)
8	佐 藤 克 弘	173	65	N 4	柳 木 高 (東 京)
9	大 坪 広 幸	172	71	N 3	九 木 高 (東 京)
10	吉 田 雅 典	171	69	E 2	奈 良 高 (京 都)
11	橋 本 研 太 郎	170	63.5	E 3	之 津 田 高 (福 岡)
12	有 馬 康 夫	169	62	N 2	門 司 北 高 (福 岡)
補	金 城 隆 支 之	168	65	E 3	普 天 間 高 (沖 縄)
補	永 塚 嘉	163	53	N 3	武 蔵 高 (東 京)

WORLD—WIDE SERVICE!

N.Y.K. LINE



日 本 郵 船 株 式 会 社

取締役社長 児 玉 忠 康

出 漕 ク ル ー

東 京 水 産 大 学

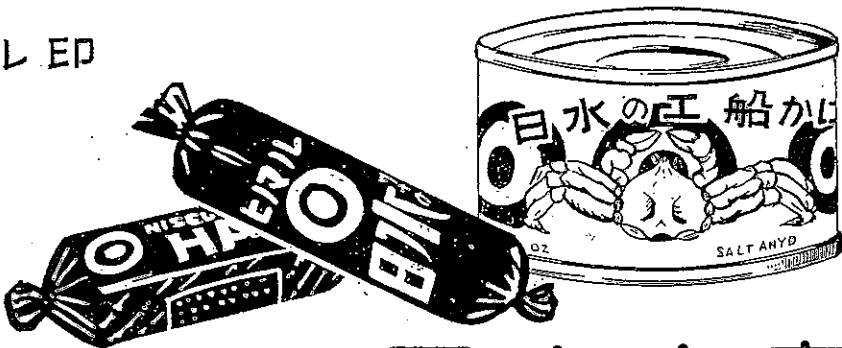
願 問 綴 指 長	氏 名	身長	体重	科 学 卒	出身校(県)
1	○ 佐 木 幸 康	168	59	増 4	八 中
2	浜 津 國 夫	169	59	漁 3	津 北
3	川 島 義 房	162	63	漁 3	倉 所
4	田 村 芳 樹	172	66	漁 2	津 本
5	酒 井 謙 一	172	65	漁 3	本 崎
6	宮 本 岡 尚	172	64	増 3	西 一
7	平 岡 孝 修	171	72	漁 3	京 丘
8	岩 崎 泰 治	180	71	漁 2	路 生
9	成 成 鶴 辰	175	68	漁 3	沢 治
10	松 田 謙 郎	172	66	漁 3	西 井
11	井 村 邦 彦	166	67	漁 2	神 尾
12	小 島 英 照	165	62	増 3	一 倉
12 楠	山 色 川 太	166	62	増 3	高 高
12 楠	田 部 井 登	172	70	増 2	高 高
12 楠	藤 田 繁	170	62	増 2	高 高
12 楠	石 井 丸	169	62	漁 2	高 高
12 楠	前 田 洋	167	62	漁 2	高 高
12 楠	◎ 前 田 洋	171	70	漁 4	高 高



日水の缶詰

ハム・ソーセージ

ヒノマル印



日本水産

審 判 規 則

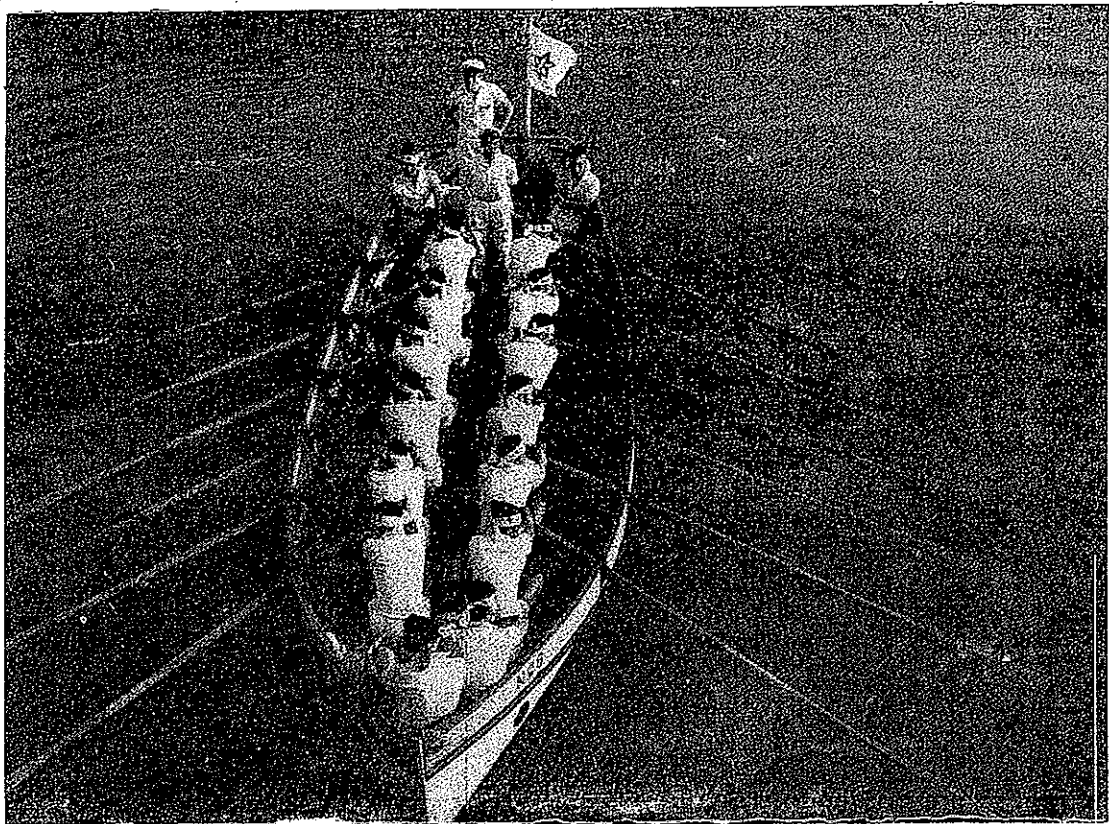
1. 使用艇、オール及びコースはレースの都度抽選により決定する。
2. スタート
 1. 各艇は指定の時刻コース順に従いスタートラインに整列する。
 2. 5分前をマイクにより通達、スタートブイにつく、ブイに着き用意が完了したら艇長は陸上の審判員に手を挙げて合図する。
 3. スタート用意：号笛短声連続、手旗2原画、号笛長一声手旗頭上より一回転する。
 4. スタート：頭上の手旗を垂直に振下すと同時に号砲を打つ。
3. 審判長、審判員がスタートを不完全と認めた時は直ちにレースを中止せしめ、スタートラインに呼び返す。
諸信号、審判艇コース横断
4. スタートに於ける号令前の飛出し、及び艇の事故によるスタートの遅延等は2回で失格である。
5. 回頭は左回頭（反時計回り）とする。回頭は指定の回頭旗を回頭するものとし、他の回頭旗を回頭した場合、及び回頭旗に艇又はオールの一部でも接触した場合は失格である。
6. ゴール
艇首が規定のゴールラインに入った順序をもって順位とし、順序は審判員が判定する。
7. 同着の場合は追込艇の勝とする。
8. ゴールイン時のスタートブイタッチは失格としない。
9. 各艇は自己のコースを航行し、もしこれを誤って他の艇に接触その他不正行為があったと審判員の認めた時は失格とする。
10. レース中のコースに於ける障害、自艇の故障等は他艇の不正な接触を除く他各艇自らこれを忍ぶべきものとする。しかし審判長の判断によりこの限りでない時もある。
11. レースに関する異議申立等は艇長が行い、審判長が裁決する。
12. オールは予備2本を積み自由に使用してもよい。
13. 補欠は1レース終了後自由に交替できる。
14. オールは流したままゴールインしても差支えない。



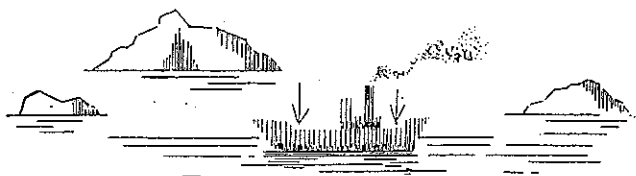
各種
設計・高速艇
建造・漁艇
修理



墨田川造船株式会社
東京都墨田区寺島町 TEL 611-7195



日魯のさけ・かに罐



あけぼの印

日魯漁業株式會社

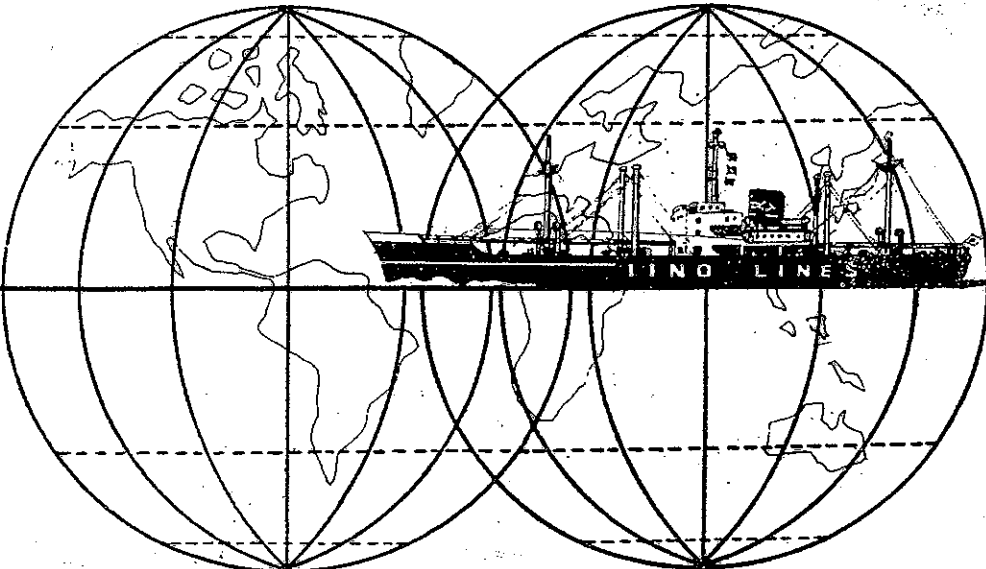


本社 東京都千代田区丸の内2~2
支社 函館・下関・久里浜・石巻

レースの手引

本大会に使用される艇は長さ9米12人漕のカッターである。救命艇として使用されるものであるが一般のそれは艀艇同型であるのに対し、艇を切落して外觀は普通の舟艇と変わらない。外板鐵張の木製でオール12本（各々長さ約4米40握りの直径3.2握、重さ10及至15斤である）マスト、セール等の鐵製品を備え帆走も可能である。漕手はクルーと呼ばれ艇尾より船首に向つて艀右側の者が1番、同じく左側の者が2番、以下交互に3、4～11、12番と続き、1、2番を Bowmen、11、12番を Stroke men（整調）と称して漕漕のビッチを加減する任務を持つ。艇尾で舵を握るのが艇長で、指揮号令を行つてゐるのが艇指揮である。艇指揮は艇の全ての指揮を行い船長に相当する。レース距離は折返し2000米の直線コースで行う。各艇の艇首が一直線に並んだ時、号砲の信号を以つてスタートラインより1000米の所に設置された各コース毎の回頭旗を艇をこれに接触させずに左回り（反時計回り）に回頭して歸つてくる。即ちスタートラインがそのままゴールラインで、ゴールは艇首がゴールラインに達した時とする。予選は各グループ4チームづつで分けて行う。各グループの優勝チーム及び2位となつたチームが敗者復活戦を行つて1位となつた計4チームによつて最後に優勝戦が行われるのである。レースはいずれも時間的ずれによる海況の変化の影響等のためにタイムレースでなく着順位である。ビッチ（1分間に漕ぐ回数）は大体30前後であるが各チームとも漕法研究を重ねているので必ずしも一定ではなく、それぞれ特色のある漕法によるビッチを持つている。レース所要時間は10分余である。しかし救命艇という性質上、いかなる荒海でもレースは行われ、その様な場合には30分にも及ぶ。カッターレースは10分余の間一腕といへども息を抜くことを許されず、しかもクルー全員の呼吸が完全に一致しなければならない。レースの見所は、ビッチをいくらに定めるか、スタートダッシュ、回頭ラストスパートの巧拙、風浪、海潮流の対策、利用の巧拙等、たゆまぬ練習、シーマンシップを完全に身につけた者が初めて克服できる実技を兼ねた、最も發快な海のスポーツである。

INO LINES



飯野海運株式会社 取締役社長 俣野 健 輔

成 績 一 覧

- | | | |
|---------------|------------|---|
| 1. ① 東京水産大学 | ② 東京商船大学 | ③ 神戸商船大学
(東京) |
| 2. ① 東京水産大学 | ② 農林省水産講習所 | ③ 東京商船大学
(神戸) |
| 3. ① 農林省水産講習所 | ② 海上保安大学 | ③ 東京水産大学
(呉) |
| 4. ① 神戸商船大学 | ② 海上保安大学 | ③ 農林省水産講習所
(横須賀)
三重県立大学
海上保安大学
(神戸) |
| 5. ① 東京水産大学 | ② 農林省水産講習所 | ③ 海上保安大学
(神戸) |



極洋の缶詰

手軽でおいしく経済!



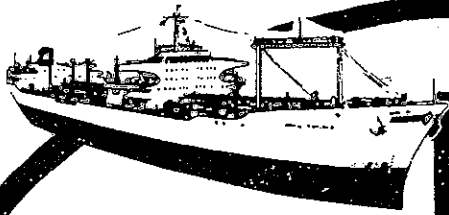
ハ ム
ソーセージ
ミート製品

極 洋 捕 鯨

天候. 風向. 風速. 波浪.

時 刻	種 目	コ ー ス	校 名	着 順	タ イ ム
09.00	開 会 式				
10.00	予選第1レース	1	神戸商船大	2	13.45.8
		2	水 産 大	1	13.06.0
		3	鹿児島大	3	13.46.0
		4			
10.40	予選第2レース	1	日本大	3	14.22.0
		2	三重県立大	1	13.14.0
		3	長崎大	2	13.45.1
		4			
11.20	予選第3レース	1	水 産 大	3	12.53.0
		2	防衛大	1	12.34.0
		3	商船大	2	14.05.0
		4	海上保安大	4	12.56.0
11.40~13.00 昼 食 休 憩					
13.30	敗者復活レース	1	長崎大	4	13.23.0
		2	東京商船大	1	12.24.8
		3	神戸商船大	3	12.35.0
		4	東京水産大	2	12.35.0
14.10	順位決定レース	1	海上保安大	1	12.50.0
		2	鹿児島大	2	13.04.0
		3	日本大	3	13.26.0
		4			
15.00	決勝レース	1	農林省水産研究所	1	12.50.0
		2	東京商船大	1	14.17.0
		3	三重県立大	4	13.01.0
		4	防衛大	2	14.27.0
16.00	閉 会 式				

7
6
5
8
9
10
3
1
4
2
4
順位



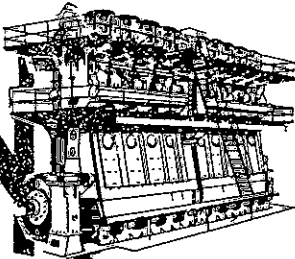
躍進産業の原動力

三菱造船株式会社

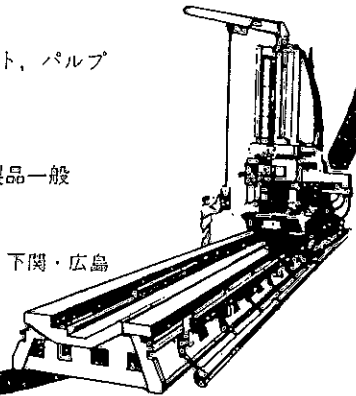


MITSUBISHI ZOSEN

MITSUBISHI SHIPBUILDING & ENGINEERING CO. LTD.



船舶・各種原動機
製鉄、鋁山、石油、セメント、パルプ
及び化学工業用諸機械
繊維機械・工作機械
鉄骨、橋梁、煙突 等鉄構製品一般



本社 東京 丸の内 三菱本館 工場 長崎・下関・広島
電話 東京(212) 3111 (大代表)

優れた技術が
世界を巡る



船舶造修
三井B&W
ディーゼル機関
化学工業プラント
産業用機械



三井造船株式会社

本社 東京都中央区日本橋室町2-1 電話 (241) 2101 7101

玉野造船所 岡山県玉野市玉10 電話 (玉野) 3111